



図書館だより



新入生・在校生のみなさん、入学・進級おめでとうございます

図書館の利用のしかたについて

開館時間

月～金曜日
19:30まで
土曜日
18:00まで

禁止事項

- ・生徒同士の おしゃべり
- ・居眠り
- ・飲食物・かばんの 持ち込み
- ・振動をたてること
- ・音を出すこと
- ・下履きでの来館
- ・入口の扉付近に 靴や鞆をおくこと

名前を必ず記入して下さい



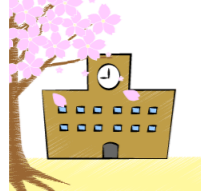
上履きで来ること!!



↑上履きを入れる靴棚

心がまえ

●配布された「図書館利用上の注意」をよく読んで、ルールを守りながら自学自習しましょう。



- 他の生徒さんの学習の妨害をしてはいけません。静かに、丁寧に、利用しましょう。
- 本などの図書資料や備品は、私たちの履正社学園の全員の財産です。それらを、大切に扱きましょう。
- 図書係の指示を素直に聞き入れましょう。

入館・退館

●入館・退館の時には、カウンターで手続きをします。(下欄参照)

閲覧・自習

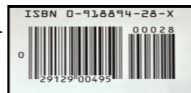
- 本などの図書資料は、丁寧に扱きましょう。読み終われば、元の場所に戻しましょう。
- 本などの図書資料は一般閲覧席で読んで下さい。それらをキャレル(仕切りのある個別ブース)へ持ち込むことはできません。(閲覧席に番号はありません。自由に座って下さい。)
- 自習はキャレル(仕切りのある個別ブース)でも、一般閲覧席でも使用できます。キャレルには番号が振ってありますので、番号札の番号に従って座って下さい。

借出・返却

- 借出できる時間帯は、昼休みです。
- 借りたいときには、生徒手帳のバーコードが必要です。
- 返却期限を守りましょう。また、返却のときは、借りていた本をカウンターの図書係に渡しましょう。

キャレル(仕切りのある個別ブース)
席ごとに番号あり、自習時に使用する
一般閲覧席
席ごとの番号なし、
図書資料閲覧時・自習時に使用する

借出期間:1週間まで 貸出冊数:2冊まで



入退館の際にはカウンターで手続きが必要です!

入館手続

- ①カウンターの用紙に 学年・組・番号・名前をていねいに記入します。
- ②番号札を受け取ります。
- ③上履きは、靴棚へ。(番号札と同じ番号の所に入れます。)

④キャレルを利用する場合は番号札と同じ番号の席に座ります。

退館手続

- ①番号札を返却して、所定の用紙に退館時間を記入します。



↑カウンターです。用紙は中学生用と高校生用があります。

合格体験記

祝 大阪大学合格 島田 樹(たつき)君

集約I類 (豊中市立第十七中学校出身)

合格大学 大阪大学 基礎工学部システム科学科 同志社大学 理工学部
立命館大学 理工学部 関西学院大学 理工学部

僕は、家で勉強するとき、いつも誘惑に負けて集中できないタイプだという自覚があったので、1年生の夏の講座期間で図書館を利用しました。館内には静寂で張り詰めた空気が漂っていて、「ここなら集中できる!」と思い、それから定期的にキャレルを使うようになりました。特に、3年生の7月から、ほとんど毎日勉強しました。

図書館では、主に、志望校などの赤本の過去問題に、腕時計で時間を計って取り組みました。このタイムトライアルは、全科目の対策勉強として有効でした。また、理科では、資料集を限なく読んだり、問題集を一から全て解いたりしました。これらのことは、集中できる空間ならではできることだと思います。そして、参考できる本がたくさん所蔵されていて、勉強道具にも困りませんでした。

このように図書館で集中することに慣れてくると、苦手だった家の中でも勉強できるようになりました。履正社では「図書館で勉強すると志望校に必ず合格できる!!」という、良いジンクスがあるようです。在校生のみなさんも、一度利用してみると、何かのキッカケをつかめるとと思います。チャレンジして、第一志望校の切符を勝ち取って下さい。



図書係中村泉先生のコメント

1年生のときから、自身の弱点を克服するために、自覚をもって、図書館内で継続的に自学自習していたのですね。これは、積極的に自律的な勉強方法であり、在校生の模範となる勉強の仕方だと思います。島田君は、大阪大学入学後、最先端のロボット工学を研究して、人類が幸福になるようなロボットを創造したいそうです。彼ならば、その夢が必ず実現できると思います。

新収推薦図書案内

ここで紹介した本以外にもたくさん届いています。ぜひ利用して下さい。

『弱いつながら 検索ワードを探す旅』 東浩紀(あずまひろき)著 幻冬舎

入学・進学の皆さん、春は出会いの季節です!

皆さんの中には、リアルな深い付き合いよりも、ネットで浅く広くつきあう方が気楽だと思っている方がいるかもしれません。

でも、著者は、ネットこそ深く狭いつきあいになると言います。ネットでは見たいものしかみることができません。ラインやミクシイでも気に入らなければシャッターアウトすれば終わりです。

著者は「自由に検索しているつもりでも、実は-googleが取捨選択した枠組みの中。統制から逸脱する方法はただ一つ。googleが予測できない言葉で検索すること。」と呼びかけます。

世界を広げ、新しい発想を手に入れるには、リアルな環境を変えてみるのが手っ取り早い。つまり、いつもの仲間とは違う人と出会い、いつものとは違う場所を旅すること。偶然の出会い、浅くて軽い付き合いの中にこそ、発想を変えるたくさんのヒントがあるのです。

逆説を使った最後の提案も刺激的でした。

「ネットには接続しておく。しかし無視する。」



是非手にとって、ネットにしばられない生き方を模索してみてください!

本メディアで話題になっています!

